



2019年の終わりも慌ただしい1ヶ月であった。

12月7-8日には盛岡で毎年恒例の清掃・物流よい仕事コンテストが開催され、いわて生活協同組合金子敏明専務理事からの挨拶や、盛岡医療生活協同組合片方直樹常務理事による講演もいただく。全国の清掃・物流現場のよい仕事の実践が報告される。「地域若者サポートステーションと連携し若者が就労体験から組合員として就労している取り組み」「学習支援で子どもに関わりながら清掃を両方担う組合員の意識の変化」「子ども食堂を医療生協病院と共に取り組む実践」「生協職員と共に物流の改善に取り組む現場」「生協配送センターの積込現場が数多く存在する事業所のニュースなどを活用したよい仕事の共有や顔の見える事業所運営」など、多様な取り組みが紹介される。優勝は地域福祉事業所Workers Net Ringsで、多様な困難な仲間と共に働く実践、生活クラブ生協と連携したハウスクリーニング、商店街と連携した社会連帯活動、そして新しい若手リーダーが中心となる新たな事業所運営への挑戦などが評価された。

新たな協同労働に関わる相談も年末に入り加速している。「NPO法人で就労支援をしてきた団体と地域でネットワークを作ろうと実践交流をするなかで協同労働による運営への関心が高まり」「商店

街のオーナーによる住居と訓練と就労が一体となった新たな仕事おこしの相談」「高齢化した団地に住む元気な高齢者より地域の課題を解決する助け合い事業をしたい」などの問い合わせが相次ぎ、近隣の加盟組織やセンター事業団の事業本部と共に訪問するなどして対応している。ほとんどのケースが労協連ホームページにたどり着いて連絡が来ている。協同労働の実践、立ち上げのフローチャート、立ち上げ支援、また地域の学習会や社会連帯活動などの情報発信を強化し、労働者協同組合(ワーカーズコープ)や協同労働につながった多くの人たちに、情報を届け、一緒に地域で活動していけるようにしたい。

今年度より始めた労協連の地域別協同労働推進ネットワーク会議の5ヶ所目のエリアとなる中四国・九州沖縄エリアの会議を12月18-19日に広島で開催した。福岡県生活協同組合連合会菊谷宗徳専務理事も参加されるなか、ひろしま協同労働推進ネットワークの取り組みの紹介や、広島市協同労働プラットフォーム事業で立ち上がった団体が報告。そのなかで、40代女性から「畑の取り組みに参加したが、野菜の収穫がとても面白く、出資して働くようになった。現在はプレーパークなど里山体験などを提供しているが、協同労働は自分のやりたいことやライフステージに応じて就労することがで

き、子育てが終わった10年後に自分がどんな協同労働の働き方をしているかを考えワクワクしている」との発言に、参加者の多くが元気をもらい、協同労働の価値を改めて感じた。

多くの地域の人たちに協同労働の働き方や価値を届け、協同労働を実感する人たちを増やし、その人たちが全国で協同労働の実践を伝えていくことが、法制化の必要性を高め、成立に結びつくと感じた。